

平成 30 年度 第 3 回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

平成 30 年 12 月 7 日 (金) 14 時 15 分～ 16 時 30 分

2 開催場所

中部森林管理局 局長応接室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・北信のカラマツ単価が突出して上昇を続けている。長い期間で見ても約 3 千円も上がっている。大変良い事例だ。
- ・原木の出材がなくても材価が上がらない。
- ・今年は自然災害が多く、その影響で素材生産が落ち込んでいることもあり、製品の生産が思うように出来ていない。多少、回復傾向にあるが供給は不足気味で一部では材価が高止まりしている。
- ・7 月と 9 月の台風・大雨による影響で岐阜県の各地で被害があり、出材が減っている。材価については夏場に無い高も見られた。中国地方の供給が中部地方にも影響している。
- ・愛知県ではヒノキの原木が足りない状況でも価格が上がらない。9～10 月は特に出材がなかった。最近になって、ようやく林道や作業道の修繕が進んできたので出材がされてくるものと思われる。
- ・最近山元からの直送が増えてきている中で原木市場の入荷量・販売量は 5～10 年のスパンで見たときに、かなり減少しているのではないか。
- ・岐阜県森連では取り扱い数量の 85 % が直送システムとなっているが、大手の製材工場の取り扱い数量が増えてきたことに起因している。原木市場も中間土場の役割を果たしている。
- ・山林所有者は丸太が安ければ伐りたくない。環境税を出して森林整備をしても、いくらになるか分からない。

・岐阜県は間伐が主体で補助金に左右される。事業によっては切り捨て間伐もあり、また労働力も限られている。

今年度のように災害が多いと供給量も減ってしまう。製材業者さんも自転車操業だと思うが、森林組合も十分な施業地のストックを持っていない。

・価格は一般流通で1～1万2千円程度。流通業者は商売していけない。だから直送が増えている。直送に変えてきたことで、いわゆるA材がB材になってしまった。きちんとした選別をしていないから丸太が全て1ランクずつ下がった。価格は当然下がってしまい今の状況となっている。

今は誰も触りたくないといった状況を作ってしまった。この状況を打破しない限り丸太の価格は上がらない。皆が選別作業を蔑ろにしすぎた。実際に丸太を使う人も良材と欠点材と一緒に入っていると困るはず。もう一度、考え直さないといけない。

・B材の比率が減っているがC材の原木が不足しているような話は一切ない。比較分類をしっかりとっていくことで、A～C材を必要とする工場に決まりを持って納材していく仕組みを作っていないと単価の支えにならない。

・一部の業者でA～D全て買うと言っている。こういった動きが出ると大変なことになる。流通は変わろうとしている。

・北信のカラマツが基本である。選別された価格体系になっており好例である。中間業者が価値を上げるための仕事をしていない。だから商売になっていない。

・山元から製材工場までの距離が近くなってきたことから無選別で運搬する傾向にある。

・どうやったら上手くいくか、造材等含めて考えて欲しい。今、生産現場では若いオペレーターがプロセッサでどんどん造材している。造材で価値を高めることが大事。それを無選別で直送するとなれば材の価値が下がってしまう。

A材、B材と言っているが少し発想を変えて製材用、合板用等のように名前を変えて意識を持って仕分けすれば、また違ってくるのでは。造材手にしてみても一体何に使われるのか分からない。